

第7回 まち・ひと・しごと創生会議提出資料

海士町役場／隠岐島前高校魅力化コーディネーター

奥田麻依子

■地方創生モデルの波及・拡散の方策について

【背景】

- ・各地域で教育を核とした地域活性の取り組みが広がりつつある。
- ・その過程で隠岐島前高校魅力化プロジェクトについて、多くの視察や取材、講演、シンポジウム等の依頼が来ており現場の本業に割く時間が不足したり、多忙感・負担感が出たりしてきている。
- ・10年ほどの挑戦と失敗の積み重ねによってできたモデルを数時間の講演や1日の視察で伝えることは困難であり、表面的なところを現場に持ち帰るだけではうまくいかない。

【現状の取組】

隠岐島前高校魅力化プロジェクトでは、この取り組みを全国に波及・拡散させていくために、以下のような取り組みを進めている。

- ・各地域の連携
 - 島根県の離島中山間地域の高校10校が合同で県外生徒募集に取り組む「しまね留学」
 - …東京・大阪で300名超の中学生・保護者が参加
 - 魅力化コーディネーター合宿研修（各校の視察を含む）
 - …8校のコーディネーターが参加
 - 魅力化コーディネーターの相互人材交流・人事交流
 - 教育寮推進ネットワーク発足
 - …寮を持つ大学・高校（SGU・SGH含む）より50名参加
 - ICTを活用し、他地域とつないだ遠隔授業
- ・教育魅力化のノウハウの言語化
- ・立ち上げメンバーが県に赴任し、県レベルで施策を展開
- ・地方大学と提携し、魅力化の専門人材（コーディネーター）の育成コースを開講



「しまね留学」合同説明会



「地域教育魅力化センター」の看板上掲式

【課題】

- ・上記の取組を一自治体が主導しようとしても、足元の現場が最優先であり、また、予算や人員にも限りがある。

【改善策】

- ・一自治体レベルではなく、国や政府関係機関が、先進事例の発信にとどまらず、コーディネーターの育成や連携など、先進事例の波及・拡散に向けた施策や支援を実行する。
- ・各地域がモデルをつくり・深化させていくのに加え、国や都道府県等が横に波及・拡散させていくという両輪があることによって真の地方創生が実現する。